



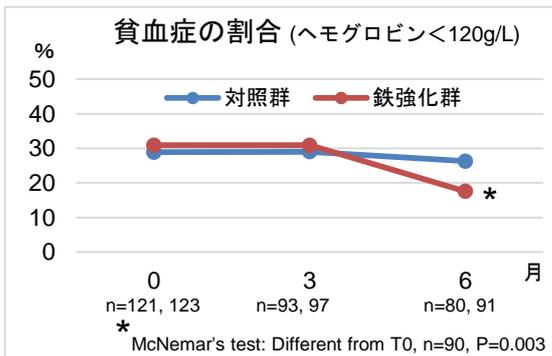
ILSI Japan CHP Newsletter

イルシージャパン シーエイチピー ニュースレター

June 2013 Number 17

ベトナム 鉄強化米摂取試験による貧血症改善

フンエン省で2010年5月から6か月間行われた、鉄強化米による貧血改善効果を検証する介入試験の結果を解析したところ、鉄強化米を



摂取した女性において貧血症の割合が顕著に減少したことが確認されました。この結果により、ベトナムにおいて貧血症削減の施策を検討する上で有効なエビデンスを示すことができました。

インド 鉄およびリジン強化米の予備試験決まる

ILSI India をインド側の調整役として、南部の主食である米に、鉄分およびアミノ酸の中でも最も重要なリジンを強化する方法を検討してきました。インドでこの分野での権威であるセントジョーンズ研究所と共同で、パイロット研究を行うことになりました。パイロット研究では、鉄分とリジンを強化した強化米がどの程度、対象者（女子学童）の貧血の改善と体格、筋力の成長に効果があるかを評価し、この次の本格的効果実証試験を実施するための指針とします。本研究は、バンガロール近辺 (Bangalore) で3ヶ月に亘り本年の後半に実施されます。なお、本件の鉄およびアミノ酸強化については、National Institute of Nutrition in India と共同で評価を行います。

Project IDEA

Iron Deficiency Elimination Action

鉄欠乏性貧血症の撲滅運動

多様な食物の摂取が困難な途上国では、気づかぬうちにビタミン、ミネラル類（微量栄養素）の摂取不足が起きます。鉄分は、健康に生活するために必要不可欠な栄養素ですが、欠乏すると特に子供の発育や知能の発達を妨げ、母子の健康にも深刻な悪影響を及ぼし、死亡率増加の原因ともなります。更に、この欠乏症は、成人後も労働力の低下や人材の育成を妨げるなど、社会全体の生産性の低下を招き、貧困を助長させます。UN ACC/SCN の報告によれば、鉄欠乏から引き起こされる貧血症は、特に対策が遅れており、今なお35億人以上の心身の健全な発達を妨げています。Project IDEA では、それぞれの地域の食生活パターンに合わせて、市販されている主食や調味料に有効な鉄分を添加し、**毎日の食事を通して欠乏栄養素を補給**することにより、鉄欠乏性貧血症を予防する活動を続けています。

これまでの Project IDEA

フィリピン国立食品栄養研究所 (Food and Nutrition Research Institute (FNRI)) と共同で、**主食である米に着目し鉄分を強化する研究を進めてきました。硫酸第一鉄あるいは微細ピロリン酸第二鉄 (SunActive) をイクストルーダ法 (米粉に鉄分を混ぜ、米の形に成型する方法) により製造した鉄強化米において、貧血改善効果があることが実証されました。**この鉄強化米を1年間パタアン州オリオン行政区でテスト導入し評価したところ、啓発・教育プログラムにより、消費者の鉄強化米の理解度・普及度が向上し、貧血症の罹患率の改善が認められました。

カンボジアの NGO RACHA (Reproductive and Child Health Alliance) と共同で、**魚醤・醤油の鉄強化の導入・普及を進めています。**カンボット市およびシエムリアップ市で導入され、普及活動を行いました。その結果、鉄強化魚醤・醤油を日常的に摂取することで貧血症を顕著に改善できることが証明され、更に、鉄強化製品の品質保証システムと啓発活動の効果も確認できました。鉄剤のキレート鉄 (NaFeEDTA) は Akzo Nobel 株式会社から無償提供を受けています。

ベトナムでは、ベトナム国立栄養研究所 (National Institute of Nutrition (NIN)) の主導により、貧血予防のための鉄 (NaFeEDTA) 強化魚醤プログラムを**国策**として進めています。現在、約10工場にて鉄強化魚醤を製造・販売しています。さらに、フィリピンで確立された鉄強化米の技術を活かし、ベトナムでも鉄強化米による貧血改善効果に関する**介入研究**を実施し、有効性を実証しました。

中国では、ILSI Focal Point in China、中国疾病予防センター (CDC China) が、2004年春から**鉄 (NaFeEDTA) 強化醤油プログラム**を国策として進めています。

ベトナムSWAN2完了 政府主導による普及活動へ



Project SWAN 2「ベトナムの地方行政機関の能力向上を通じた安全な水の供給と栄養改善プロジェクト」では、2013年3月のプロジェクト完了にあたり、SWANモデルの他地域への導入を支援するために、省・郡レベルの実務者を対象にプロジェクトガイドライン・マニュアルを作成しました。さらに完了ワークショップを開催し、プロジェクトを通して得た経験や知見を関連機関と共有しました。プロジェクトガイドライン・マニュアルは、SWAN1から6年間に亘り蓄積されたノウハウを盛り込み、下記の4部から構成しました。①チーム作り、住民のニーズ抽出、水処理施設の現状把握の方法、②啓発活動の計画・実施・評価方法、③水処理施設の改造計画・運転・管理方法、④活動を持続させるための水管理組合の役割、普及のステップについて、理論をわかりやすく解説した教材から、記録用紙、報告様式などの具体的な教材もあり、現場の実務者が使いやすい内容となっています。



プロジェクト完了時のワークショップは、村、省・郡、

国の3レベルで開催し、村レベルでは、SWAN実施方法について村どうしの学び合いがあり、省・郡レベルでは省内の拡大計画が話合われました。国レベルでは、紅河流域の5省に対し、SWANの成果と知見を共有し、SWANの展開を希望する省は、ハノイやナムディン省の実施地域を視察の上、事業提案書をベトナム側SWANワーキングチームへ提出するよう呼掛けました。

現在、普及の1歩として、ハノイとナムディン省で行政の主導によりSWANの活動を進めています。ハノイでは、フィリップチャートを1200部増刷し、啓発活動を中心に、またナムディン省では、今年度中に10か所の水処理施設を対象にSWANが実施される計画です。

ミレニアム開発目標(MDGs)の達成に向け、水供給や保健医療、教育分野では、効率的な課題解決の糸口として分野横断連携が注目される中、分野横断連携の好事例としてSWANが今後も各方面で取り上げられることが期待されます。

Project SWAN Safe Water and Nutrition

安全な水の供給と栄養・保健環境の改善

WHOの報告によると、安全な飲料水の供給を受けられない人の数は、全世界で約8億人に上るといいます。多くの途上国において、不衛生な水の摂取や保健衛生環境の不備は、特に子供が下痢や感染症を繰り返す要因になっています。このような状況は、食事の適切な摂取を妨げ、栄養不良の問題にもつながります。また、水処理設備はあっても、汚染物質を取り除くための適切な設備がなく、薬品の注入も管理されていないため、処理後の水でさえもWHOの基準を上回る微生物・化学物質が検出される例が多いのです。

Project SWANでは、安全な水を確保するために、①住民が水・栄養・保健衛生に関する知識を得、家庭レベルで実践する。②水処理施設の運転を最適化し、安全な水を供給する。という双方の視点から活動を進めます。更に、③持続的な活動のための仕組みづくりから評価に至るまでを住民の参加を得て実施し、コミュニティベースで、継続的、かつ安全な水供給システムのモデル作りを行います。

これまでのProject SWAN

公共水道水の供給が今後も見込まれていないベトナム北部の農村地域に着目し、2001年からベトナム国立栄養研究所(NIN)と共同で、水処理施設の状況及び飲料水の水質調査を実施、更にフォーカスグループディスカッションを通して、安全な水の供給及び家庭レベルでの衛生管理の必要性が明らかになりました。これらの事前調査を基に、「住民参加による安全な水の供給と栄養・保健環境の改善事業」をJICA草の根技術協力事業(草の根パートナー型)に提案し、3年間にわたりプロジェクトを実施するための基金を得ました。2005年11月から、ベトナム北部にある3ヶ所の村(タンヒエップ(ハノイ)・ダイモ(ハノイ)・クワンチュン(ナンディン))をモデル地域として、約2500世帯を対象に活動を開始しました。村では、水質検査や水処理施設の運転を担当する技術グループと、栄養・保健衛生に関する情報提供活動を担当するIECグループ(Information Education Communication)が相互に協力し活動を進めてきました。2008年11月には、大きな成果を得てプロジェクトが成功裏に完了しました。2010年4月から開始したフェーズ2では、中央政府レベルにワーキングチーム、地方政府レベルにサポートチームを設置し、分野横断的な連携を強化し、コミュニティでの活動実践・維持能力の向上を図ります。

“オフィスでテイクテン”の動画をネット公開

テイクテンのコンセプト、「バランスの良い食事と適度な運動」は、高齢者に限らず、どの世代の人々にとっても大切なこと。そこで、仕事中の休み時間を利用して、オフィスで簡単にできるストレッチと筋力トレーニングの動画をホームページ上で公開しています。

ストレッチは約4分30秒、筋力トレーニングは3分40秒と非常に短く、座ったままでできるものを紹介。動画を見ながら一緒に体を動かし、気分転換ができるツールとして、年齢を問わず、多くの人々が気軽に活用できるものにしました。是非下記サイトでお試し下さい。

<http://take10.jp/office.html>



<高齢者のための介護予防プログラム>

すみだテイクテンの成果に関する論文が国際的学術誌に掲載される

墨田区の介護予防教室「すみだテイクテン」の成果についての論文が、国際的な電子科学ジャーナル BMC Geriatrics に掲載されました。論文掲載後、アクセス数が非常に多く、「Highly Access」な論文として示されています。この論文では、TAKE10!@プログラムがコミュニティにおける健康増進プログラムとして有効であることを科学的に証明しています。また、世界中の多くの研究者の目に触れるよう、TAKE10!@のツールの紹介も行っています。

論文は下記のサイトから無料でダウンロードできます。

<http://www.biomedcentral.com/content/pdf/1471-2318-13-8.pdf>

Community-based intervention to improve dietary habits and to promote physical activity among older adults: a cluster randomized trial

大手スーパーの展示会でテイクテンプログラムを紹介



2013年5月24日から26日まで、東京国際フォーラムで開催された大手流通グループのイオン株式会社による展示会、G.G.コレクション（グランド ジェネレーション コレクション）に出展した味の素株式会社のブースの中で、味の素株式会社の各製品の試食と共に、テイクテンの紹介DVDが流され、TAKE10!@についてのチラシとマグネットが配布されました。このブースへの来場者数は、3日間で68,000人、チラシ・マグネットを受け取った方は12,000人に達し、高齢者だけではなく、多くの一般消費者にテイクテンを知っていただく良い機会となりました。

すみだテイクテン第8期の結果と第9期開始

今年の3月で第8期「すみだテイクテン」が終了しました。初心者教室の効果は、これまでと同様に食習慣の変化と体操習慣の改善も認められ、体力測定の結果も改善しています。初心者教室の平均出席率は、今年度も82%を超え、社会性や社交性の向上など二次的な効果も見られ、また、閉じこもりの予防につながることも期待されます。

